

【競技名】Kokohore !-WanWan

【競技紹介】

ポチは宝探しの名犬。とある野原には、かつて平家の落人が逃げる時に隠した宝の隠し場所が15箇所ある。そして野原には、時として光り輝く白銀の像が出現するという噂もある。ポチは、野原を走り回って宝の隠し場所を見つけ、ご主人に知らせなければならない。さて、ポチは制限時間内にいくつの隠し場所を見つけられるだろうか！

※2014ルールからの変更点は赤字で記載してある。[ルール更新箇所は青色下線で記載してある。](#)

NEST ロボコンのエントリーとチーム

NEST ロボコンは、ロボット1台でエントリーすること。1台のロボットを2名以上のグループで製作することも認める。

NEST ロボコンの全競技は、別のロボットの製作者（製作グループ）と「チーム」を編成し、ロボット2台で競技を行う。「チーム」の組み合わせは大会側が行い、NEST ロボコン開催日の1週間前までに事前に公表される。ルール内の「チーム」とは大会側で組み合わせた「チーム」の事を指す。

競技回数

参加チーム数により、1～2ラウンドの競技を行う。

ロボット

ロボットは自律型でなくてはならない。大きさの制限はない。競技開始前に、ロボットの前がどちらであるか質問を受けることがあるので、答えられるようにすること。

車検

出場するすべてのロボットは競技前に車検を受け、合格していなければならない。車検では、インタビュー形式で製作したロボットがどのように動くか説明することを求められる。

フィールド

フィールドのサイズは1.6m×2.2m。白ボール紙(0.8m×1.1m)を4枚つなぎ合わせ、4辺の内側を緑のラインで、外側を黒のラインで囲む。緑のラインは、フィールドとなる白ボール紙の4辺の端に貼る。黒のラインは、緑のラインの一部を重ねてフィールドと床を固定するように貼る。(フィールドイメージ図参照)

宝の隠し場所

黒の正方形シール(6cm四方)を10個、銀色の正方形シール(6cm四方)を5個、フィールドにランダムに配置される。宝の隠し場所は、白銀の像が乗る円形シート上には配置されない。競技回数が複数の場合、各ラウンドによって宝の隠し場所は異なる。

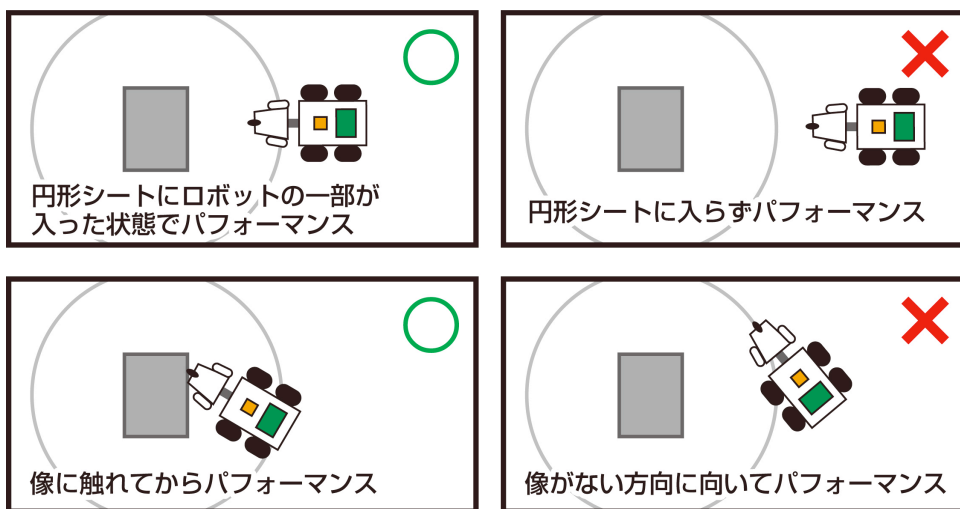
白銀の像

白銀の像はレンガ2個を固めたもので銀色をしている。チームは白銀の像の発見ミッションにチャレンジするかしないか競技スタート前に選択できる。チャレンジする場合、像は1フィールドに2個置かれ

る。白銀の像は、半径20cmの円形シート（ボール紙白面を使用）の中心に置かれる。円形シートはフィールドに接着されない。円形シートの厚さ分3mm以内の段差ができるが、対応できるようにすること。像が乗っている円形シートはフィールドの外側ライン（黒）から15cm以上離れた位置に置かる。二つの像は互いに40cm以上離れた位置にランダムに配置される。（フィールドイメージ図参照）

宝の隠し場所と白銀の像の発見

宝の隠し場所および白銀の像を何らかの方法で発見する。発見した場合、4秒以上パフォーマンスを行う。白銀の像は、ロボットが円形シート内に入った状態で、像に触れていない場合は像の方を向いた状態でパフォーマンスした場合、発見と見なす。像を倒した場合や、像に触れていない状態で、像に対して横や背を向けてパフォーマンスをしても発見としない。）



発見パフォーマンス

黒と銀シールの発見パフォーマンスは、1秒停止した後、発見した場所から移動しなければ、その内容は自由とする。白銀の像の発見パフォーマンスは、必ず動きのあるパフォーマンスを行わなくてはならないが、走行部分は動かしてはならない。パフォーマンスは審査され、優秀なパフォーマンスにはベストパフォーマンス賞が送られる。独創的でテーマに沿ったパフォーマンスほど、評価が高くなる。

制限時間

競技の制限時間は120秒とする。ただし参加チーム数によって変更される場合がある。その場合、タイムボーナスポイントの時間も変更される。変更は事前にアナウンスされる。

得点

隠し場所および白銀の像を発見し、4秒以上のパフォーマンスを行った場合、黒色は1個につき5点、銀色は1個につき10点、白銀の像は1つにつき10点獲得できる。ただし、すでに発見した像や隠し場所を再び発見しても得点は加算されない。またチームの他のロボットが発見した像や隠し場所を発見しても得点は加算されない。制限時間内に宝の隠し場所15箇所すべてを見つけた場合、以下のタイムボーナスポイントが与えられる。

- ・ 競技開始から90秒以内・・・25点
- ・ 90秒を超えて100秒以内・・・20点
- ・ 100秒を超えて110秒以内・・・15点
- ・ 110秒を超えて120秒以内・・・10点

スタート方法

フィールドのコーナー4箇所、フィールドの短辺中央に1箇所ずつ、計6箇所に1番～6番の番号がついたスタートポイントがある。スタート直前にチーム・キャプテンがサイコロを振り出した目の数でスタート箇所を決定する。スタート時には、フィールドの中心に向けてロボットを置く。スタートの合図と共にチーム2台のロボットが同時にスタートする。

10秒ペナルティ

- (1) 外枠の黒線の外にロボットが完全に出てしまった場合(ロボットの一部分が黒線にかかっていたら可)、審判がロボットを即座に取り上げ、10秒間数えた後、出た位置から再スタートする。その時、ロボットは内向きで黒線と垂直になるよう配置して、再スタートさせる。
- (2) ロボットの走行部分もしくはパフォーマンスを動作させる部分が故障した場合、審判はチーム・キャプテンにロボットをフィールド外に出して直すよう命じることができる。フィールド外に出してから10秒間はロボットをフィールドに戻すことはできない。ロボットを戻すのは選手が行い、フィールドから撤去した時と同じ位置と向きに置くものとする。
- (3) ロボット同士が絡まって動けなくなってしまう場合、審判は2台のロボットをひき離し、10秒後に、絡まって動けなくなった場所に2台のロボットを背中合わせに置き、再スタートさせる。
- (4) ロボットが白銀の像を倒した場合、審判はロボットを取り上げ、像を戻し、10秒数えた後、ロボットを像に背を向けた状態で戻す。

順位付け

全ラウンドの中で最も高い得点で順位付けを行う。

<同点が出た場合順位付け>

- ① 最高得点を出したラウンド以外の得点で優劣をつける。
- ② ラウンドが1回しか行われなかった場合や①で同点が解消されない場合、総合的なロボットの評価としてパフォーマンスの審査得点(2台のロボットの合計点)によって順位付けする。

審判と審査員

各フィールド毎に、審判・審査員を配置する。審判は、開始と終了のコールを含めた競技の進行全体を管理し、得点記録を行う。また、競技内で起きた様々な状況を判断する。審査員は、ベストパフォーマンス賞の審査を行う。

プレゼンテーション・ポスター

サイズはA3縦とする。ロボット製作者(製作グループ)は事前に活動内容、戦略、ロボットのメカニズムや動きの説明等をプレゼンテーション・ポスターにまとめ、競技会当日、会場に掲示しておかなければならない。審査員は、ベストプレゼンテーション賞の審査を行う。

賞

チームの獲得した競技得点より順位付けをし、優勝・準優勝・第3位を表彰する。

また競技順位とは別にベストパフォーマンス賞・ベストプレゼンテーション賞^{もう}を設け、賞状を授与^{じゅよ}する。ベストパフォーマンス賞はテーマに合わせた外観や優れた「発見パフォーマンス」を行ったロボットに対して、ベストプレゼンテーション賞は最も優れたプレゼンテーション・ポスター^{がいかん}に対し与えられる。

【フィールドイメージ図】

